

アカゲラ通信



カモメという名の「かもめ」

生物の日本における正式な名前を標準和名といい、カタカナで表記されます。

標準和名がヒタキという「ひたき」やサギという「さぎ」はいないですが、中にはその仲間の総称（以降「」付きひらがな表記）が標準和名となっている種がいる例もあります。

■札幌市中心部では「かもめ」が普通に見られますが、札幌で「かもめ」といえば、たいていオオセグロカモメのことを指します。

オオセグロカモメ、詳しくは裏面「野鳥ノート」をご覧ください。

「かもめ」には標準和名カモメ（右写真）という種がいますが、こちらは冬鳥で見る機会も少なく、あまり知られていません。

ウミネコも「かもめ」ですが、名前が有名なため「あれはウミネコです」と話すと、多くの場合納得してもらえます。その後に、「どこが違うの？」という話になることもあります（こちらも裏面参照）。

■ツバメは、札幌市内ではたまに見られる程度ですが、後志地方より西と南では普通にいます。市内ではイワツバメ（右写真左）の方が多く見られ、大きな河川周辺にはショウドウツバメもいます。これらスズメ目ツバメ科の鳥の総称として「つばめ」はよく使われます。

■しかし、アマツバメ目アマツバメ科のハリオアマツバメ（右写真右）やアマツバメも「つばめ」と呼ばれることがあります。別系統の生物が進化の過程で外見が似ることを「収斂進化」といい、これらはその例としてよく取り上げられます。

ちなみに、中華料理で使われる「燕の巣」は、アマツバメ科「あなつばめ」の仲間の巣です。

■キジは日本の国鳥ですが北海道にはいません。北海道で見られるのは、明治以降に放鳥され野生化した外来種コウライキジで、以前はキジの亜種でしたが現在は独立種として扱われています。コウライキジを北海道で「きじ」と呼ぶ人は多いですが、両種が同時に見られる事はないので、さしたる混乱はないようです。ただし、別の種であることは押さえておきたいものです。

■近年旭山周辺でも見られているチゴハヤブサを「はやぶさ」と呼ぶ人もいますが、ハヤブサもいるため「はやぶさ」の情報には注意が必要です。

■ツグミはおなじみの冬鳥で、単に「つぐみ」といえばツグミを指すことが多く、他のツグミ科のクロツグミ、アカハラ、シロハラなどは「つぐみ類」と呼ばれており、あまり混乱はないようです。

■ニュウナイスズメ（右写真下）はスズメ（右写真上）とは別種との意識が強いのか、にゅうない、と呼ぶ人が多く、あまり混同はしていないようです。

いろいろな呼び方を使うのも、野鳥観察の楽しみのひとつですね。



レストハウス「ぼるく」営業中！ 10時～17時

旭山記念公園レストハウス【ぼるく】です。

ついこの間まであんなに暑かったのに、朝晩すっかり涼しくなってきました。窓を開けて寝ると風邪をひきそうです。

公園内には鳥やリスなどの小動物の他にエゾシカもいます。

先日、園内でエゾシカファミリーに出会いました。草をモグモグしていて、逃げるどころか逆に近づいてきました。

野生の動植物の観察の後は、是非ぼるくへ！

コーヒーやソフトクリームで一休みしませんか。お待ちしております！



いちごいちえミニ
300円(税込)

「吊り橋」通行止めのお知らせ:2025年8月26日(火)~9月9日(火)

旭山記念公園内の「吊り橋」は、来年度に予定されている補修工事の事前調査を行うため、上記の期間通行止めとなります(予定)。期間中は、「吊り橋」南側の散策路などからの迂回をお願いいたします。
ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

旭山野鳥メモ 72 オオセグロカモメ

オオセグロカモメ Slaty-backed Gull *Larus schistisagus* チドリ目カモメ科

通年。北海道で繁殖する「かもめ」は本種とやや小さいウミネコのみ。

写真は成鳥夏羽、冬羽では白色部に茶色の斑点が入る。幼鳥は全身茶褐色。完全な成鳥羽になるまで4年かかり、若いほど茶色みが強い。

札幌では約30年前から市街地に進出、普通に見られる野鳥になった。
旭山はたまに来る程度で、今年7~8月に何度か見られた。

市内ではマンションや立体駐車場の屋上に営巣するが、これは本来の営巣地である海辺の岩崖に見立てたものと考えられている。

オオセグロカモメが札幌に進出した頃、嘴の力が強いためごみ袋を漁るようになるとカラスよりやっかいだと言われていたが、現状ではそうはなっていない。

夏に見られる「かもめ」2種についてだけの違いは、足がオオセグロカモメはピンク色、ウミネコ(右写真下)は黄色。ウミネコは飛翔時尾羽の先に黒い帯があるのが大きな特徴。

街中にオオセグロカモメがいると「さすが北海道」という声を聞く。北の街の野鳥だ。



2025年9月の野鳥トピックス

- シマエナガ: ときどき見られるくらいで少ないです
- コサメビタキ: 「学びの森」などで幼鳥成鳥とも見られています
- キビタキ: 幼鳥成鳥ともにときどき見られています
- ヤブサメ: 笹藪内を探せば見られことがあります
- シメ: 8月下旬からちらほらと見られるようになりました
- クマゲラ: 主に雄の個体がしばしば見られています
- ヤマゲラ: 8月は毎日のように見られていました(右写真雌)
- カケス: 9月2日今年初認。昨年はほとんど見ませんでした



旭山ミニ生き物図鑑2025年9月



エゾリス大好物オニグルミ 8/12



ニホンカナヘビ今年は多い 8/10



クサキリ「ツー」と鳴く 8/25



ヒトリガ「火取蛾」毒蛾 9/2



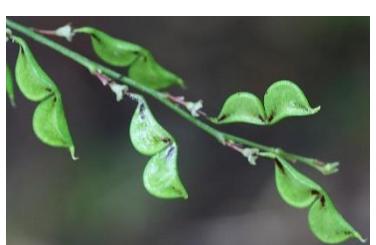
アキノノゲシ朝に開く 8/10



ネジバナ今年も出た 8/15



ウシタキソウ旭山で久しぶり 8/16



ヌスピトハギ種子(ひつつき) 9/2



公式サイト

「アカゲラ通信」 第143号 2025(令和7)年9月5日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351